

## 全てはこのまちと 子ども達の未来のために

一般社団法人当別青年会議所  
第36代理事長

せんてい とも のり  
**泉亭 智則** さん



Junior Chamber International Tobetsu



### 青年会議所（JC）とは？

**今から** 100年前、アメリカのセントルイスに住んでいた青年が格差の無い社会を作りたいという思いから立ち上げたのが青年会議所の始まりです。当別町では1980年（昭和55年）の8月1日、47人の青年が立ち上がり、全国で668番目となる青年会議所を創立しました。月日は流れ、今年で35周年という節目の年を迎えています。青年会議所は、町内と周辺で働く20歳から40歳までの青年が入会できる団体で、現在、様々な業種で働く20人が会員として運動しています。明るい豊かな社会を築きあげていくため、今年は「自覚と責任」というスローガンのもと、まちづくり、青少年育成を中心に各種事業を実施しています。当別町を元気にしたい、夢を持てるまちにしたいという共通の志を持つ仲間と日々、議論を交わしています。時には深夜まで議論が続くこともあります。

### どのような活動を？

**35**周年を迎える今年は、町民の皆様、今まで青年会議所を支えてくれた関係者の皆様、そしてメンバー自身を支えてくれた家族に対して「感謝」を伝えていく年であると考えています。また、既存のまちの魅力を新たな「地域のたから」として発掘し、発信していく事業として今年度は、「食」をテーマに豊かな農産物を活用した「地域のたから」を創出する事業、子ども達に将来への夢を持つことの大切さを伝え、更に大きな夢へとつながる事業を実施します。私自身が幼少のころ楽しんだ町内会や育成会などの地域コミュニティが少なくなっていると感じ、地域を守るのは責任世代である我々大人であることを痛感しました。当たり前だと思っていることは当たり前ではなく、多くの方の支えがあるからこそ継続しているものだということを責任世代である大人に伝えていく必要があります。このまちで暮らす町

民自身がまちに魅力を感じることでファンとなり、「当別町は素晴らしいまち」と発信できることが理想ではないでしょうか。私達の想いを伝える事業として、町民が古くから親しんできた開拓の歴史と日本文化が色濃く残る「当別神社例大祭」と当別町商工会青年部が築き守ってきた野外ビアパーティーという既にある「地域のたから」に、日本の伝統的な祭り文化である花火を組み合わせ、新たなまちの魅力「とうべつ花火大会」を創造することで、今まで当別青年会議所を支えてくれた全ての皆様に対する感謝の気持ちを伝えるとともに、未来を担う子ども達がやがて大人になった時に故郷を語る思い出となり、より深いまちへの愛着を持てるような取り組みをしたいと思います。当別青年会議所の想いを是非、会場で感じて下さい。（6月17日取材）

花火大会は、8月13日（木）午後8時より阿蘇公園にて開催される予定です。